

# 現代日本産業の停滞と国際的地位の変容

—2010年代日本の産業・再生産構造分析—

2017.9.23. 村上研一 (中央大学)

## I. はじめに p166

- ・課題：2010年代日本の産業・再生産構造 ⇒産業構造、投資動向、分配関係、グローバル経済の中での位置
- ・『2000-05-11年接続産業連関表』で構造分析、2010年代の動向は、「機械受注統計」「貿易統計」等で分析

## II. 産業構造・再生産構造の概観 p166

※表1・2 (p167)：産業別国内生産額と販路構成の推移 (2000→05→11年)、2000年国内生産総額=100

- ・国内生産総額：名目 (表1) 2000年100→05年103.24→11年96.11 ※00s→10sの落ち込み大きい
- 実質 (表2) 2000年100→05年100.15→11年89.14

※表1・2の販路区分の理論的基準は、拙稿「消費過程に介在するサービス資本および国家事業と再生産」を参照

### 1. 産業構造の変容：表1・2 (p167)の縦軸=産業構造 p168

- ・化学・窯業・土石、電力・ガス・水道は名目 (表1) 増・実質 (表2) 減・資源価格高騰による価格上昇示す
- ・運輸・通信は一貫して、名目 (表1)・実質 (表2)とも増加、名目の方が増加幅大きい・価格上昇示す
- ・農林水産業・軽工業・電気機械・建設業は一貫して低下
- ・金属・一般機械・輸送機械：00→05増加、05→11減少 ・00s自動車を中心とした輸出依存的成長とその破綻

### 2. 販路構成の推移 (再生産構造)：表1・2 (p167)の横軸=販路別構成 p168

- ・原材料：名目 (表1)36.92→39.00→36.67・景気変動と照応) / 実質減 (表2)42.29→41.49→35.47) ・価格上昇
- ・産業別：化学・窯業・土石、金属、電力・ガス・水道で価格上昇 (表1)名目増・(表2)実質減) 顕著・資源価格高騰反映
- 一般・輸送機械での原材料 (表1)一般1.34→1.42→0.94、輸送3.17→4.28→3.36) は景気変動と照応
- ※00s好況下で国内生産拡大=I部門内部循環→00s後半不況下で国内生産縮小
- 電気機械での原材料=部品価格低下：名目 (表1)3.28→2.75→2.06) / 実質 (表2)2.07→2.10→2.09)
- 表3 (p170) 電機部品・製品とも輸入品低廉化 (インフレタより) / 部品・製品とも輸入品浸透浸透率
- ・流通資材：名目・実質とも増加傾向・産業別には電力・ガス・水道、運輸・通信・研究からの投入が増加
- ・サービス資材：名目・実質とも増加・産業別には運輸・通信・研究、化学(医薬品)が増加、電力・ガス・水道は価格上昇
- ・労働手段・流通設備・サービス設備：表1)名目・表2)実質とも減少続く→国内投資縮小示す：次節で詳しく分析
- ・消費手段：名目・実質とも減退 (特に05→11) ・運輸・通信・研究が増/軽工業が減、電機は価格低下(名目減)
- 表4 (p171) 消費低迷とともに輸入品浸透：繊維・電機製品(消費財)は国内消費減だが輸入増 (自給率が急減)
- ・公共設備：名目 (表1)2.34→2.28→1.67)・実質 (表2)2.80→2.65→1.84) ともに減少・公共事業縮小
- ・輸出：名目 (表1)8.96→11.59→11.42)、実質 (表2)8.59→11.18→11.27) ・実質では05→11に輸出構成比拡大
- ・産業別には化学・窯業・土石、金属、一般機械で輸出増顕著、電機は名目減・実質増 (輸出価格低下)
- \*00s輸出依存的成長が08世界不況で破綻したにもかかわらず、日本産業の輸出依存的性格は更に深化

### Ⅲ. 設備投資の動向 p172

※前節で検討した表1・2では、労働手段・流通設備・サービス設備が減退＝国内投資減退を示す

#### 1. 資本財別投資額の推移 p173

- ・図1 (p172) 固定資本投資減・固定資本減耗増 ⇒2008-12年には純投資マイナスに
- ・表5 (p174) 00→11 資本財別投資額：建設、一般機械、電気機械など多くの資本財で減少  
その他輸送機械（船舶・航空機）、精密機械（医療機器）、ソフトウェアが増加

#### 2. 2010年代の設備投資動向 p173

- ・図2 (p175) 2010sの機種別・機械投資の動向：重電機、火水力原動機、電子計算受注増/通信機の受注減
  - ・図3 (p176) 電子計算機の販路：金融・保険、地方公務、防衛省向け受注が増加/外需、通信業は縮小
  - ・図4 (p176) 重電機の販路：電力業向けの伸びが中心、外需も回復/製造業向け受注は低迷
- ・その他輸送機械の投資増：図5 (p177) 船舶受注・外需中心に拡大（16・7年急減）、内需は防衛関連増
  - ・図6 (p178) 航空機(部品含む)受注・外需の伸び+防衛関連の比重も大きい
- ・表6 (p179) 医療機械投資：多くの機器で輸入・輸入比率増、輸出減・貿易特化係数低下（競争力低下）
  - ・表7 (p180) 輸入相手国：米国からの輸入多い、次いで欧州、家庭用などは中国から

※国内生産減退を反映して国内設備投資の全般的減退・例外：電力業、公務・防衛省、金融保険業での投資増  
医療機器投資も増加しているが輸入品の増加顕著

### Ⅳ. 分配関係と雇用・賃金の動向 p180

※上記のように表1・2で、消費手段が減退：不況・景気低迷下にもかかわらず（「ラチェット効果」働かず）  
（従来・一般的には、不況下では国内生産総額に占める消費手段の構成比は上昇）

- ・図7 (p182) 収入と物価：98→05年に物価下落傾向、実収入はそれ以上に減退（97→03年に10%減）  
2010年代も物価・実収入とも減退傾向続く→14年消費増税で両者の乖離が広がる
- ・表8 (p183) 産業別雇用動向
  - 00→05→11 製造業、建設、卸売、飲食店、農林水産業、運輸など雇用減
  - ・05→11 一般精密機械、輸送機械、化学、飲食料品小売業で雇用増
  - 大きく減少：建設・31万、電機・24万、道路貨物運輸・16万、飲食店・13万
  - 医療福祉（社会保険・福祉・介護中心）、労働者派遣業が増加続く …ともに低賃金
  - ・05→11 介護で+72万人
  - ・05→11+30万人（労働力調査）※比較的高賃金の製造・建設業の雇用減→低賃金の介護・非正規雇用の雇用増

- ・表9 (p184) 派遣労働者利用産業：00s 電機・輸送機が中心→10s 商業・建設・運輸通信・医療介護・サービスへ

\*労働者派遣業利用の性格：00s 輸出競争力志向の非正規利用：電機・自動車などでの競争力強化→輸出増へ  
10s 内需型産業で非正規利用拡大：コスト削減→非正規増＝低賃金→コスト削減  
（いわゆる「デフレ・スパイラル」型）



1. 輸出入動向の概観 p185

- ・ **図8 (p185)** 輸出入の動向 (2010s 貿易赤字) : 輸入額の増加→15 縮小、実質輸出 (輸出数量) の縮小
- ・ **図9 (p186)** 品目別貿易収支 : 鉱物性燃料が規定的、電気機械の黒字急減 / 黒字は輸送機械、一般機械、鉄鋼
- ・ **図10 (p187)** 鉱物性燃料輸入 : 輸入量は石油減・石炭横ばい・LNG 増加傾向・LNG 増加は環境面からも自然  
→輸入額の増減は資源価格の動向によって規定されている

2. 各産業の国際競争力の変容 p187

- ※**表10 (p188)** 「外国貿易概況」より、地域別・品目別貿易収支・貿易特化係数の検討 (05→12→15 年)
- ・ 品目別貿易黒字 (12→15 年) : 乗用車、一般機器、輸送機器、金属で拡大 →2000 年代と同様な品目への依存
- ・ 化学の貿易黒字・特化係数の減退 (12→15 年) : 対 EU 赤字拡大→対 EU 赤字全体を規定・医薬品の競争力低下
- ・ 金属の貿易収支 : 貿易黒字総額は増加傾向 / 特化係数は 12→15 年に低下・12→15 年アジア、北米特化係数低下
- ・ 資本財の貿易黒字・特化係数低下 : 中国向け資本財が赤字転落・一般機器・電気機器が中心、輸送機器も黒字減
- ・ 一般機器貿易 : 対 NIEs、北米は 10s 貿易黒字回復するが特化係数低下・産業機械輸出回復するが競争力は低下  
対 EU では貿易黒字減少とともに特化係数低下 →産業機械の競争力低下を示す  
対中国は貿易赤字拡大・貿易特化係数のマイナス拡大 ・現地生産 : 後の**図17・表12**を参照
- ・ 電気機器 : 貿易黒字・特化係数とも急減 →後述の電機の品目別貿易で見る電子部品競争力低下を反映か?  
貿易収支は北米で微増以外は軒並み黒字縮小・赤字増、特化係数は全相手国で減退
- ・ 輸送機器 : NIEs、北米は貿易黒字だが、それ以外は黒字減 / 特化係数は北米以外低下・対アジア部品輸入増を示す
- ・ 乗用車 : 10s 全地域で貿易黒字拡大 (特に対北米) / 特化係数も対中国以外上昇・10s 輸出回復、輸出の中核
- ・ 鉱物性燃料の輸入 : **図10 (p187)** で検討した燃料価格動向にほぼ対応、対アジア輸出も増加

3. 輸出産業の国際経済における位置とその変容 p189

- ※**図11 (p190)** 品目別輸出数量指数 : 2010s 「円安でも輸出数量増加しない」 ←空洞化・国際的地位の変化のため?
  - (1) 自動車 ・ **表10 (p188)** で貿易黒字拡大、ただし海外生産も拡大
  - ・ **図12 (p191)** 90s 末～08 年 : 輸出増に伴い国内生産微増、海外生産拡大とともに部品輸出も拡大  
→2010s 輸出・国内生産横ばい、海外生産拡大するが部品輸出は減少 (サプライチェーンごと海外移転)
  - (2) 電気機械 ・ **表10 (p188)** で国際競争力減退が明瞭→品目別分析
  - ・ **図13 (p192)** 品目別貿易収支 : 通信機(スマートフォン)、事務用機器(パソコン等)赤字拡大、電子部品黒字が急減  
電気回路等機器、半導体製造装置、電気計測機器で黒字確保・労働手段分野
  - ・ **図14 (p193)** 半導体製造装置の受注 : 2010s 外需回復 / 内需縮小 ←電子部品輸出の低迷が要因
  - ・ 電機産業内の産業連関 : **表11 (p194)** 05→11 年電機関連部門の取引額の増減 (名目ベース→企業業績に直結)  
・ 「通信機械・同関連機器」国内生産 2.2 兆円減←国際競争力低下が主因 : 輸出 0.9 兆円減 / 輸入 1.1 兆円増  
「電子計算機・同付属装置」国内生産 1.0 兆円減←国内投資減が主因 : 固定資本形成 0.8 兆円減、輸出入とも減  
→これら製品の国内生産減、電子部品輸出減により「その他の電子部品」国内生産減
- ※2000s 電機産業 : 製品生産の空洞化進むが、電子部品 + 労働手段(半導体製造装置含む)の輸出  
→2010s 通信機中心に製品輸入拡大、電子部品輸出の減退、労働手段の輸出が中心に

(3) 一般機械 ・ 表 10 (p188) で貿易黒字大きい

- ・ 図 15 (p195) 一般機械輸出額の品目別推移 (ドル建て) : 2011-2年ピークに各品目とも輸出額が減退 (円安の下で)
- ・ 図 16 (p196) 金属加工・工作機械の受注額 (円建て) : 2010s 外需回復/内需縮小 ←自動車輸出の低迷が要因  
※2010s 一般機械輸出:ドル建て減/円建て増→図 11 (p190) 数量ベースでは減退傾向
- ・ 図 17 (p197) 一般機械の貿易収支と地域別輸入額 (ドル建て) : 2010s 中国からの輸入増に伴い、貿易黒字が減少
- ・ 表 12 (p198) 産業別の海外生産比率 : 2010s 汎用機械など一般機器で急上昇 →\*海外生産・逆輸入の広がり

(4) 金属および鉄鋼 ・ 表 10 (p188) で貿易黒字・貿易特化係数の維持

- ・ 図 18 (p199) 金属貿易の推移 (ドル建て) : 黒字は鉄鋼が中心、2010s 黒字縮小・図 11 (p190) 数量でも輸出停滞
- ・ 図 19 (p199) 鉄鋼の製品別輸出数量 : 鋼管と薄鋼板は増加/圧着鋼・亜鉛メッキ鋼板・フラットロール鋼板は減少
- ・ 図 20 (p199) 鉄鋼の相手地域別輸出量 : アジアNIEs・アセアン・中国向け減/インド・中南米向け増

※日本の金属・機械・自動車産業の性格変化 : 2000s 金属・労働手段・自動車生産の国内生産・輸出=製品供給者  
→2010s 自動車 (部品含む) 生産の海外移転 : 労働手段+素材の輸出=生産手段供給者へ

\*ただし、汎用品では海外生産 (一部逆輸入) はじまる

(5) 化学および医薬品 ・ 医薬品は高齢化・福祉領域拡大で生産増 (表 1・2 (p167) のサービス資材投入増)

- ・ 図 21 (p201) 化学・医薬品貿易 : 2000s~医薬品は輸出伸びず・輸入増/有機化合物 (表出外) の貿易黒字  
→2010s 医薬品輸入・貿易赤字が急増し、化学製品全体で赤字に転落

VI. おわりに ・ <<現代日本産業の性格 (まとめ)>> p202

- ・ 国内再生産の縮小均衡 : 投資減退 (国際競争力低下・消費減退)、消費減退 (非正規雇用、格差・貧困の広がり)  
※投資拡大が見られた分野 : 電力、金融保険、公務・軍需分野、医療分野 (医療機器・医薬品とも輸入依存)  
⇒世界不況後にも輸出依存の構造が持続、しかし国内産業の国際競争力減退 (輸出が国内生産・雇用に波及せず)
- ・ 国際的位置の変化 : 従来<<粗原料・エネルギー輸入→素材・部品・労働手段・製品生産→製品輸出>>構造  
(金属・機械産業) →<<国内は高級基礎素材+労働手段生産→部品・製品生産は現地生産 (逆輸入)>>構造  
⇒2010s 「円安でも輸出・貿易黒字が増加しない」・貿易赤字の広がり = 「輸出大国」の終焉
- ・ 医療分野 (成長見込み) での競争力喪失 : 医療機器・医薬品ともに貿易赤字・輸入依存